



TITLE:

天文同好會例會記事

AUTHOR(S):

CITATION:

天文同好會例會記事. 天界 1929, 9(97): 266-266

ISSUE DATE:

1929-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161391>

RIGHT:

然し全般として、反射鏡はたゞ相當に見えるものが出来ればよいといふ事や、素人の種々の質問や、たゞ作つて見たいといふ希望に對するよせ集めで根底の深い書物ではなく、アメリカ流を露骨にしたものゝ様に思ふ。然し此れによつて素人の反射鏡研究家が如何に多く又、凡ゆる方面に研究を續けて居るのが分かる事と思ふ。

第十編の一部に正しい拋物線の影の事について自分が編輯者 Ingalls に送つた記事が出て居るのは恐縮である。(中村)

天 文 同 好 會

例 會 記 事

〔一月例會〕

一月十三日天文分教室で開催された。會場の都合が悪く多少豫定を變更した爲新聞廣告、學内掲示も出来なかつたが、大阪、神戸、大津等の遠方から出席せられた方もあり盛會であつた。先、山本博士は臺灣から歸學せられたまゝ直に演壇に立たれ、山崎彗星を追つて臺灣へ遠征せられた其苦心の狀を御話し下さつた。次に荒木先生は御出發間際の御忙しい時間を割いて御出席下され、種々の面白い譬諭を用ひて天體運動の法則を御説明下さつたので、皆笑ひながら六ヶ敷い法則を一通り理解する事が出来た。

〔二月例會〕

豫定の通り十八日夕七時から樂友會館で開催。新聞廣告もし、又學内掲示も充分であつた爲、百餘人の出席があり、スチームに温りながら先生の御講演を聴き、誠に靜に氣持よく一夜を過した。

山本博士は演題を變更せられ、目下の話題たる、本年五月の日食に就いて、大體三月號の記事の如き講演をせられた。

次いで、中村要氏は、火星の近況なる題の下に、最近に於ける火星觀測者。統一的觀測、特殊光線による寫眞撮影に就き約一時間御話し下さつた。

その後三三、五五集つて快談し九時散會。